

領域 10 インフォーマルミーティング議事録

司会進行：李先生（領域代表）、書記：栗原（連絡委員）

日時：2021 年 9 月 22 日（日）18：00-18：

会場：オンライン（zoom）

出席者：19 名（李，狩野，Voegeli，中平，田中，石井，川名，小野，志賀，筒井，森川，清水，土田，田尻，近藤，鈴木凌，中島，三谷，栗原 順不動、敬称略）

1. 領域委員会報告

企画公演：シンポなど報告

ポスター：ブレイクアウトルームについて開催，ポスター発表は発表資料の事前投稿で成立，

英語化について議論：委員会の内容 ”留学生や外国人の配慮のための英語化は賛成，秋以降も継続審議，理事会に差し戻し，協力レベルは反対ではない，領域ごとに事情が異なるのである程度任せてほしい，学生の教育の観点は理解できない，議論の視点が狭い，推奨は強制に等しい，反対者は強い反対意見を持っている”などが報告された

会長からの「お願い」が下った，以下内容 ”英語化を各領域で呼びかけてほしい，セッション毎に英語化するのはどうか”，これに対して領域の返事が必要
委員からの意見（領域 10 のリアクション）：ほかの学会ではアブスト英語で講演は縛らないなどあるがそこでは国際化が推進されているのか，他の学会の状況を統計的に調べた資料も必要ではないか，ドイツ物理学会はドイツ語ではなく英語，いきなりすべて英語化はハードルが高い，

2. 賞の推薦依頼状況等

若手奨励賞（2 名）；現状 1 件，報告書は本部に提出済み，受賞が決まった場合には領域 10 の枠内で 2022 年に記念講演を行う

論文賞：現在募集中

米沢賞：現在募集中

3. 学生優秀発表賞について

現在審査中⇒2021/09/23 に運営委員が ZOOM で会議を行った。そちらの議事録を参照のこと

募集要項について conflict があるため議論，また学生優秀発表賞の周知が足りてない等の議論に発展した，以下コメント：領域 10 で過去 1 回かつ今回 1 回を対象にするのが趣旨だと考えられる，領域 10 は全体の件数が少ないので領域活性化のため学生を集めるように条件が緩くなった可能性がある，学生優秀発表賞の周知が不足しているため応募件数が少ない可能性がある，学会本部が関与しておらず領域の裁量なのが問題，チェックボックスが分かりにくい，領域 10 で 2 回発表という縛りもキツイ可能性があるが 1 回では緩すぎるという問題点もある，領域 10 での学生賞の宣伝を積極的にするべき，申請書の提出も周知が足りない，学会の募集要項に書いてもらうことはできないか，キーワード画面に書いてしまうのは，積極的にメーリングリストで宣伝する，こちらは優秀発表賞審査会議でも議論されたのでそちらも参照のこと

4. 代表、副代表、運営委員

2021 年度の副代表、運営委員が確認された。

次々期運営委員の推薦状況を確認し、

次期副代表：立命館 是枝先生（池田直先生からも推薦あり）

次々期運営委員

誘電体分科：名古屋工大 木村耕治先生

X線・粒子線分科電子線サブ分科：学芸大 Wolfgang Voegeli 先生

フォノン分科：北海道大 友田基信先生

格子欠陥分科：奈良先端 橋本由介先生（IM 時点で未内諾，2021/10 に承認された）

が承認された。

その他

概要提出率の報告

アブスト提出率が（物性の中では）低い

若手奨励賞受賞者の上限は講演件数で決まる

超秩序構造関係（田尻先生より）

コメント：学術変革領域で超秩序構造のプログラムが走る，このプログラムでは領域 10 での発表をもって研究成果の普及の手段としているため関連して今秋学会での領域 10 での講演件数が増加したと考えられる，分科にまたがった内容になっていることから超秩序関係の講演も分科を横断している，これまでの学会と比較して関連講演の聴講者が増えたため効果があったと思え今後の講演数も増える可能性がある，この背景には関連講演をまとめた講演プログラム作成が効果的だったのではないかと，他方分科横断的なためプログラム編成が大変だった，Slack でプログラム編集が効果的だった，セッション編成の際に簡便な手続きが必要⇒キーワード（第三キーワード，これはどの分科も選べる汎用キーワードであるため分科横断的なキーワードも追加できる）による分類が効果的ではないか，プログラム編集の際には臨時サブ分科「超秩序構造」の運営委員を設定するため分科運営委員の負担にはならないようにしたい，X 線サブ分科 IM では承認済み，⇒IM 内で承認となる

参加者からのコメント：超秩序でプログラムをまとめるのはいい，超秩序構造でまとめていたが結局のところ分科ごとの講演のようになっており聴講者もその分科の人がメインだった可能性がある，そのため様々な分野の人から意見をもらうという雰囲気を作れていなかったのではないかと，もう少し分科の枠を取り払ってプログラムが組めないか，学生の教育的にも幅広い分野の意見を集めたい，など

誘電体分科（石井先生，狩野先生）より提案

キーワードについて，誘電体分科の口頭発表件数が減少しており改善が必要，キーワードが 20 年程度変わってないため更新する必要がある，国内外の研究動向を踏まえたものにする，領域外からの新規参入を推進するキーワード追加キーワードが多く IM 内では判断できない，いったんメールで委員に送信し，後ほど議論・承認という流れになった。